

三字熟語①三友(三益友、三損友)

企業経営漫談士 岡野実空

「三友」とは、「三益友」と「三損友」のこと。これまでの「三〇」二字から「三字熟語」へのバトンタッチに、これほど相応しい言葉はありません。ここではその両友を踏まえ、組織のミドルに必須な「三交友」について考えます。

その1: 「三益友」

『論語』のいう「益者三友」は、正直な友、誠意ある友、そして博識な友。気づかないこと、知らないことを教えてくれ、自分に役立つ友人たちです。

一方アメリカの諺では、医者と弁護士と牧師。高額医療と訴訟大国を反映して、前二者は不動ですが、自分の事情に合わせ三番目を固定しないところが、いかにも米国流。そこに登場するさまざまな職業からは、アメリカ社会の実像が垣間見えます。従って「医者と弁護士と坊主」という友人論を説く我が同胞は、概ね「米国出羽守」と推察されます。

それに対し古来の日の本代表は、兼好法師。『徒然草』にいう「よき友」とは、物をくれる友、医者、知恵ある友。いずれにせよ古今東西、必要なトキに、必要なモノやコトを、提供してくれる人こそ、有り難い友であることに違いはありません。

その2: 「三損友」

『論語』の「損者三友」は、体裁ぶる友、誠意のない友、そして口ばかりで行動が伴わない、自己中私的な仲間。友が逆境のときに、その実態が露出し、上記の「益友」とは真逆の行動をとる人たちです。

またその万国共通の特徴とは別に、「柵」や「絆」の国の『徒然草』では、「友とするにわるき者」として、地位が高い、若い、身体剛健、酒好き、武勇に逸る、嘘つき、欲深の7種を挙げています。彼らはいずれも「弱者」としての経験がないか、仮にあっても、それをつづじて人間関係に最も大切な「共感性」を養えなかった不幸な連中です。

しかしそこには、「嫉妬深き者」という根深いワルが未登場。それは「劣等感」を解消するために、自ら努力するという王道ではなく、手っ取り早く「他人の足を引っ張る」道を選ぶ輩です。しかもその対象があらゆるものに及ぶだけに、より質が悪い。しかもいま SNS という最新の武器を得て、身近な友ばかりか、社会にも害毒をばらまく困った存在になっているのです。

「三々な経営」

E-06 「ライフシフト」の必要条件③3つのワーク
E-19 男の嫉妬

「四字熟語」で考える経営戦略

Z-09 続・3つの「ワーク」③ネットワーク
Z-15 続「男の嫉妬」

その3: 「三交友」

以上を踏まえ、ミドルの「交友」は、まずなにより「心友」。お互いに長所短所を知りつつ心を許し、深く理解しあっている友。その効能は、「友情は喜びを倍に、悲しみを半分にする」(シラー)

次は、先の「益友」。しかしすでに登場した専門家たちも、その担当領域の中に得手不得手があるのが実態。従ってこちららの問題の要因を見抜き、必要に応じて、その解決に相応しい仲間を紹介してくれるのが、現代の「益友」です。

続いて三つめは、「智友」。上記のとおり「益友」の多くは、限られた領域の問題を効率的に解決するのに最適。しかしその専門知識がアダとなり、分野を跨ぐような課題解決はむしろ苦手です。そんなとき一緒に考え、それらを越えた「知恵」を生み出すことができる「益友」こそが、希少な「智友」。その友は、そんな課題の発生に備え、日常から専門以外のことにも幅広く関心をもち、それらを貪欲に吸収しようとしている習慣の持ち主です。

さて最後は、「友」の目を見た、以上の項目の自己点検。それは年齢を増すごとに、自分が友を選ぶより、逆に友から選ばれることが多くなるから。お互いに新たな発見があるからこそ、関係は継続するのです。自己研鑽を怠る訳にはいきません。

そんな陰の努力を認め合うのが、無二の「親友」。それは、昔話やタコツボ組織の話題で盛り上がるだけの「旧友」とは異なる「心友」です。

2021年7月26日 実空